



シニアネット ワークの立ち上げ

2

年前に会社の第一線から退き時間が出来た。石油資源枯渇問題や地球温暖化問題を学ぶにつれ、会社

現役の36年間のうち30年以上も関わった原子力の知識経験を何とか生かして社会貢献できないものかともがいていた。

ある時、昔の仕事仲間にも勧められ

「エネルギー問題に発言する会」に入会した。毎月の会合に出かけて驚いた。

昭和30年代の原子力立ち上げの初期から業界で活躍した方々が、第一線から退き肩書を取って熱心に勉強し真摯な議論をしている。私などは新人生のようなもので、もっぱら「聴くだけの会員」であった。この会は政府やマスコミなど色々な方面に真面目な「発言」



金氏 顕

SNW幹事
三菱重工業特別顧問

をしている。

その活動の一つとして「学生とシニアの対話」を1年前から始め、全国各地の大学に出かけて原子力やエネルギー、環境専攻の学生達と対話し彼らに夢と希望を持ってもらい将来のキャリアデザイン構築を支援をしている（詳細はエネルギー会のHP参照）。

私も今年3月の関西4大学学生との対話から参加してその意義を体験した。大変に好評なので、さらにシニアのネットを広げ活動も多彩にと日本原子力学会に「シニアネットワーク（SNW）」連絡会設立が3月末の学芸理事会で承認された。

4月中旬にSNW設立準備打合せがあり幹事に指名され、約1カ月後に迫っ

た設立記念総会開催に向けて事務的作業を暗中模索で開始した。この1カ月は多忙ではあったが気分はすこぶる充実していた。そして5月22日に産官学の錚々たる方々、若い学生たち、多くのシニアというまさに世代、分野を超えた方々に集まっていただき盛況裏に実施出来た（詳細は近日中にSNWのHPに掲載予定）。

多くのシニアの方々から良かったと嬉しそうな声を聞いた時は何とか役目を果たせたと安堵した。しかしその後一息つく暇も無く、体制整備、活動準備、問い合わせ対応等に日々忙しい。シニアメンバー皆が張り切っているし学生たちも期待しているので事務局として大いに尽力したい。

ただ一つ悩みがある。現役第一線退任以来、昨年は約1カ月かけてカラフル山脈奥地水河のトレッキングに出かけ神々が住むという70000〜80000m峰を仰ぎ見、今年は春にアフリカ最高峰キリマンジャロ5895mに登頂した。まだ足腰が弱らない内にと、来年も次の海外登山を狙っているがそれまでにはSNWを軌道に乗せておかないと長期に休めないとい頃から心配している。